令和８年度「まちみらいミーティング」
まちみらい地域ミーティング

10年先を見据えたまちづくり



石のまち糸魚川
ISHI NO MACHI ITOIGAWA

1 第４次総合計画の策定に向けて

第４次総合計画とは

計画期間

令和９年度～令和１５年度

位置づけ

まちづくりの最上位計画

主な内容

まちの将来像と重点施策の方向性を示す

2 策定にあたって

総合計画審議会

選出団体

地区代表、教育関係、PTA、保護者会、福祉団体、医療団体、青年団体、産業団体、観光団体、交通関係、金融機関、消費者団体、共同参画団体、公募

人数

23人

アンケート

市民アンケート

・R6.8.15～R6.8.30
・回答数　744件
・回収率　37.2%

市外在住者アンケート

・東京糸魚川会、関西糸魚川会
・糸魚川応援隊
・回答数　334件（回収率5.3%）

意見聞き取り

市内関係団体

経済団体、観光団体、交通安全協会、交通事業者、連合区長会、農協・漁協、森林組合、スポーツ協会、文化協会、医師会、食生活改善推進委員協議会　他

団体数

20団体

市長との地区懇談会

開催内容

市民とともに未来を開く
人口減でも幸せに暮らせるまちづくり
・R7.10.2～R7.11.27
・市内１３会場（小学校区単位）

人数

・参加者数　582人
・アンケート　63件（回収率10.8%）

若手職員ワークショップ

開催内容

既存の行政枠組みにとらわれない柔軟な発想で、「自分たちが住み続けたい、誇れる糸魚川」を構想。

人数

入庁12年目まで、かつ概ね35歳以下の職員　20人

若者みらい会議

対象

市内在住、在学、在勤の20代、30代の若者

実施内容

・ワークショップ　２回
　自己理解、対話、関係性形成
・実装イベント　駅北シネマ

3 アンケート等から見える課題

主な課題

- 地域医療の維持、充実
- 働く場、雇用の確保
- 交通や移動手段の不便さ
- 買い物、商業環境の弱さ
- 空き家や住環境の課題

4 アンケートから読み取れること

読み取れること

- 「今の暮らし」だけでなく、「将来も暮らせるか」が焦点
- 高齢層は医療、交通への不安が強い
- 若い世代は雇用、子育て、定住のしやすさを重視
- 地域の持続性そのものが問われている

⇒日常の不便さというより、**将来も安心して住み続けられるか**
という生活基盤への不安

5 第４次総合計画では

第４次総合計画では

人口減少を前提に、単なる縮小ではなく、
必要な機能を見極めて充実させる**「縮充」**
の考え方で、未来に向けたまちづくりを
進める。

6 第４次総合計画の基本姿勢

第４次総合計画の基本姿勢

・まちの活力を維持・向上させる

将来世代につながる基盤を守る

・住みたいまち・住み続けたいまちを実現する

市民の実感に応える

・次世代にやさしく責任ある運営を行う

持続可能な自治運営を進める
将来に負担を先送りしない

7 暮らしを支える３つの柱

第４次総合計画での暮らしを支える３つの柱

医療

総合病院を核に、**医療提供体制の維持・安定**、人材確保、在宅医療や健康づくりを進める。

教育

0歳から18歳までの切れ目のない子ども一貫教育、小中一貫の学び、地域資源を活かした探究学習を充実させる。

地域経済

産業振興、雇用創出、観光・交流、空き家活用、創業支援により、**地域内で経済が循環する仕組み**を強める。

8 第４次総合計画の進め方

第４次総合計画の進め方

・10年先から逆算するバックキャスティング

・限られた財源を重点分野へ集中

9 進めていくうえで大切にすること

第４次総合計画を進めていくうえで大切にすること

対話

市民一人ひとりの声に耳を傾け、人と人とのつながりを活かす

共通認識

広報紙等による情報提供、適時適切な意見聴取による**情報共有**

協働

市民、地域、事業者、行政が**共に考え共に行動する**

10 10年先を見据えたまちづくりへ

まちづくりに対する皆さんのご意見をください

・自分がこうありたい、地域がこうあってほしい

・まちづくりに向けて、要望ではなく、自分ができること

・将来に向けて、残したいもの（イベント、公共施設、その他）

⇒　これからのまちづくりに向けて、一緒に考えましょう